

第3投目：クロの釣れる時間



2011.12 月某日、私が所属する磯釣りクラブの忘年会釣行の日です。毎年年末、事前に日を設定し、夜の忘年会にみんなで囲むクロの刺身を狙います。前もって日時を決めているため天候は運次第、この日は次第に北東の風が強くなり、波高も 2.5m まで高くなる予報でした。チャンスは時化する前までの午前中、本日参加できたクラブ員 5 名を含む計 7 名で渡船に乗り込みました。

私が降りた磯は K 瀬、前回も 3 枚釣っているのですが、天候は良くないですが 1 枚ぐらいは出るんじゃないか？という気持ちです。

朝マズメの暗い内からあまり考えなくても釣れるクロを狙ってみますが、小さいイスズミが釣れるばかりでかンぱしくありません。少し明るくなって海を観ると、いつも流れる上げ潮の角度と強さが少し違います。さらに前回は見えていた良型イスズミなどの魚が表層で全く確認できず、キワにも見えません。

『クロが見えないのなら、釣り人から見えないところを試そう…』ふと、前の呑み会で誰かが発した言葉を思い出しました。

それなら…と自分から魚は見えない、しかし潜る潮ができるポイントへ移動しました。そのポイントではハリスを張りなおすたびに刺し餌のオキアミがしっかりと潮を受けているのが判り、仕掛けを回収する前に刺し餌があるのかないのかが判断できます。やはり潜る潮がしっかり発生しているようです。すぐにイソゴンベが釣れ、その次の投入…ウキが斜めに入るアタリです。魚を掛けると、竿の胴まで一気にしぼり込みますが、それを耐えるとキューンを軽くなりキワに寄ってくる嬉しい引き！午前 7 時 25 分、小さいながらもなんとかクロの顔を拝むことができました。その後も連続ヒットを狙いますが、刺し餌が取られるばかりで嬉しくなるアタリはやってきません。何度も高台から潮を観察し、沖へ走る潮に遠投したり、キワを試したりしましたが、結局この日は朝方の 1 枚のみでした。

時化てきていたため正午には回収、渡船に乗るとクラブ員合計で 7 枚のクロが釣れていました。みんなに釣れた時間を聞いてみると全てのクロが 6:45AM から 7:30AM までの間、それ以後のクロ釣果はゼロです。思い出してみると自分がクロを釣った後、急に北東の風が強くなり波も大きくなってきました。さらに雨までパラつき始めました。何か上空の気圧に変化があったのでしょうか。結果から考えるとそれば悪い変化だったかもしれません。単に潮が良かった悪かただけで説明しがちな釣果、実はその他の自然要因が複雑にからんで影響するのかもしれないと感じた釣行となりました。

